

図書館へ行こう

本は、市内の図書館・図書室どこでも貸出・返却できます。

おすすめの
新刊

『月とアポロとマーガレット』

著/ディーン・ロビンズ
え/ルーシー・ナイズリー
出版社/評論社
マーガレットは、宇宙と算数が大好きな女の子でした。そして、1969年、アポロ11号の月着陸を成功させた、女性プログラマーとなりました。幼いころから自分のやりたいことをあきらめず、どんなことにもチャレンジし続けたマーガレット・ハミルトンを描いた絵本です。



『フォックスクラフト 3』

著/インバリ・イセーレス
訳/井上 里
出版社/静山社
魔法の力を秘めた子ギツネのアイラは、最大の敵メイジと純白のキツネがいる暗闇の地へ赴く。家族を取り戻すため、アイラの最後の戦いが始まります。壮大な魔法と冒険の物語です。



『ツチハンミョウのギャンブル』

著/福岡 伸一
出版社/文藝春秋
4千匹のうち生き残れるのは1匹か2匹。ツチハンミョウの壮絶なギャンブル人生に比べたら、私たち人間なんてー。生物学者の福岡ハカセが大胆なる仮説・珍説・枝葉末節を綴る。



『も〜っとずぼらヨガ』

著/崎田 ミナ
監修/福永 伴子
出版社/飛鳥新社
ヨガ通いによって心身の健康を取り戻していった漫画家が、ずぼらでも運動嫌いでも続けられるヨガ・ストレッチをマンガで紹介する。座ったままでもできるポーズも多数収録。



『師匠歌丸』

著/桂 歌助
出版社/イースト・プレス
桂歌丸の弟子になって32年。悪戦苦闘しながら、まっすぐに師匠の背中を追いつけた著者が、落語家を志してからの師匠との日々を綴りました。「ほめる人は敵と思え、叱る人は味方と思え」と弟子思いの桂歌丸の姿を垣間見ることが出来る1冊です。



『ごろりんたまねぎ』

さく/いわさ ゆうこ
出版社/童心社
たまねぎの皮をむいてみると、中から真っ白なたまねぎが出てきました。縦にさっくり切って、またまたそれを半分に分けてみると、ばらばらとばらけてきて……。楽しいおいしい食べもの絵本です。



図書館のイベント情報

会場	主なイベント	開催時間
平戸図書館	おはなし会 (おはなしのへや)	毎週日曜 午後2時～
	赤ちゃんおはなし会 (おはなしのへや)	12日(水) 午前10時30分～
	「みんなdeシネマ」(COLAS平戸ホール)「トロッコ」(邦画:116分)	8日(土)・27日(木) 午後2時～
	ライブラリーコンサート(COLAS平戸ホール)門屋尚山氏、松浦歌乃子氏、安永歌恵氏、筒歌晴氏らによる尺八と箏のコンサートです。(予定)	29日(土) 午後7時～
永田記念図書館	おはなし会 (ふれあいセンター児童室)	毎週土曜 午後2時～

各図書館・図書室連絡先

平戸図書館	☎22-4017
永田記念図書館	☎28-0128
南部公民館図書室	☎27-0047
生月図書室	☎53-2111
田平町中央公民館図書室	☎57-0207
大島村公民館図書室	☎55-2511

図書館ホームページ

http://www.hirado-lib.jp
携帯電話からQRコードを読み込んで簡単にアクセスできます。



各地域の食生活改善推進員が紹介します！ 18

今月のレシピ

健康ほけん課健康づくり班 ☎内線2546

『トマト肉じゃが』

【材料(4人分)】

豚肉(こま切れ)・・・120g 醤油・・・大さじ1・1/2
じゃがいも・・・3個 酒・・・大さじ1
にんじん・・・1/2本 砂糖・・・大さじ1
玉ねぎ・・・1個 にんにく(みじん切り)・1かけ
ホールトマト缶・・・1缶 サラダ油・・・小さじ1

【作り方】

- 1 じゃがいもは皮をむき一口大に切る。にんじんは、いちよう切りにする。玉ねぎは、1cm幅のくし切りにする。
- 2 鍋に油をひき、にんにくをいれる。香りが立ったら豚肉を入れて炒め、砂糖を加える。
- 3 豚肉に火が通ったら、中火で玉ねぎ、じゃがいも、にんじんを入れて油が回るまで炒める。
- 4 トマト缶、醤油、酒を加え、炒め合わせて、ふたをして火が通るまで煮る。

【栄養(1人分)】

エネルギー 161kcal たんぱく質9.3g 塩分1.4g



トマトのうまみと

酸味で減塩料理！

定番の肉じゃがに、トマトのうまみを使うと、だし汁いらずで作ることができます。トマトの酸味が豚肉と良く合い、減塩にもなります。定番の味に飽きたらぜひ作ってみてください。



大島支部 若芽会
のびのび
柴山 延子 さん

毎月19日は「食育の日」です！

春日集落の「かくれキリシタン信仰」

春日集落は、戦国時代後期に生月島南部などを治める籠手田氏の所領となり、1558年にヴィレラ神父の主導による一斉改宗で、平戸島西海岸の周辺地域と共にキリシタン集落になりました。1561年に春日を訪れたアルメイダ修道士の手紙から、当時、春日集落の見晴らしのよい場所に教会堂が建てられたことが確認できます。

春日集落のかくれキリシタン組織は「お札」などをご神体とするキリシタン講と呼ばれる小さな組織が二つあったほか、洗礼を行う役目の人がいた事や「オテンベンシヤ」による病氣直しが行われていたことが聞き取り

から分かっています。これらの組織は平成に入ると解散していきませんが、今でも納戸神と呼ばれるご神体(聖具)を大切に祀りしている家があります。祖父が熱心なかくれキリシタン信者であった寺田さん(安満の里春日講会長)は「小さい頃に祖父と一緒に中江ノ島が見える小高い丘に登ったことがある。中江ノ島に向かって呪文のようなものを唱えていたことを覚えている。今思うとあれがオラショだったのかもしれない」といいます。

春日集落で継承されたこれらのご神体は、案内所「かたりな」でその複製品を展示しています。

世界遺産

vol.6

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産に関する情報をお知らせします。
☎文化交流課文化遺産班 ☎内線2277

オテンベンシヤと呼ばれる納戸神(ご神体)



麻の縄を束ねたもので、かくれキリシタンの行事で祓いや病氣治しに用いる。